

	メインアリーナ 稼働率			平日の稼働率を上げる工夫
	平日	土日祝	年度	
自治体A	98%	82% (※新型コロナの影響による大会中止により、土日祝の稼働率が平日に比べ低くなっている。)	●R2	・専用使用の予約のない区分については、予約開始から概ね10日経過後、<u>一般公開（個人使用：卓球、バドミントン、ソフトバレーボール、バレーボール、バスケットボール）を設定し、市民に利用</u>されている。 ・一般公開では、<u>器具の設置及び撤去は施設側で</u>行っている。
自治体B	40%	90%	○R1	・1/4面単位から貸出可能とし、個人でも利用しやすい区分としている。 ・平日の日中は、バレーボールや卓球、バドミントン等の<u>協会が市民向けの教室や活動で定例使用</u>している。
自治体C	53%	89%	H30	・空き時間を活用し<u>親子でのイベント</u>を開催 ・アリーナの空き時間の<u>個人利用開始を予定</u>(一般の方は通常の申請を省略、より簡単に利用してもらえる設定)
自治体D	80%	100% (※年間3日程の空き)	H30	・指定管理者による<u>教室（主婦向け、子ども向け等）を開催</u>して利用率を上げている。前年の一般利用の実績を見ながら、利用率の低いところで教室を実施している。 ・インターネットの予約システムを使用しており、常時空き状況が確認できる。 ・<u>高齢者の利用料金を半額に</u>しており、高齢者が気軽に利用している。
自治体E	45%	70%	●R2	・広報/誘致活動【施設に関する各種情報を記載したHPの開設、チラシ、パンフレット、地域タウン誌、SNSの活用。地域活動団体の情報提供（サークル掲示板の設置）。専用予約システムの導入、教室・イベント参加システムの導入（事業者HP）。関係団体や一般団体のほか、民間企業、各種学校等、幅広い利用者への情報提供とPR活動の実施。大会誘致、スポーツ合宿誘致に向けたスポーツツーリズムの推進。】 ・利用促進のイベント【事業者による利用促進イベントを適宜実施。年に1回大規模イベントを実施。】 ・提案プログラム【<u>子どもから高齢者までの幅広い年齢層を対象に</u>、気軽に参加でき、楽しみながら健康づくり・体力づくりが可能な<u>スポーツ教室や運動プログラム</u>を企画。】 ・一般開放の設定【<u>一般利用者向けに手ぶらで参加できる一般開放</u>を設定。種目は利用実績と要望を踏まえてスケジュールを月毎に計画。競技エリアはネットで3分割でき、一般利用での稼働率を上げている。】
自治体F	25%	48%	●R2	・社会体育のバドミントン、バスケットボール<u>教室等で日常的に利用</u>されている。 ・指定管理者によるヨガ、ピラティス等のフィットネス系や卓球<u>教室を自主事業として開催</u>している。
自治体G	68% (※全日)	93%	H30	・<u>個人開放日</u>の見直し ・スポーツ教室・フィットネスのプログラムの追加等
自治体H	75%	90%	○R1	・<u>一般公開利用</u>（指定管理者が設定する個人単位で参加できる各種スポーツの場の提供。<u>器具は事前に管理者が設置</u>する。） ・指定管理者が行う<u>各種スポーツ教室</u>（卓球、バドミントン、ハンドボール、ソフトテニス）
自治体I		59% (※全日)	●R2	・<u>高齢者、主婦向けなどの教室</u>開催 ・<u>幼稚園、保育園、支援センターなどの教育機関へ案内</u> ・<u>スポーツDAY（個人利用デー）の開催</u>（日曜夜間、月曜日終日、空き時間帯）

※稼働率の定義（算出方法）は自治体によって異なると思われることに注意が必要。

（アリーナの一部でも使われていれば全体が稼働としているものとして捉えて算出している。）

●：通年コロナの影響があったと思われる。 ○：2月、3月のみコロナの影響があったと思われる。